

地方から海外への情報発信をサポート

2009年8月

フォーリン・プレスセンター

フォーリン・プレスセンター(1976年設立)では、日本の実情を海外に正しく理解してもらうため、外国メディアの日本での取材を支援しています。海外からの記者招聘事業のほか、在京特派員を対象に日本各地を取材するプレスツアー、専門家や政府関係者を招いた講演会「プレスブリーフィング」、また外国メディアに対する個別の取材協力など様々な事業を展開しています。また、ホームページ(<http://fpcj.jp/>)では、注目すべき話題について、主要紙の論調を中心に簡潔にまとめた解説「ジャパン・ブリーフ」(9カ国語)など、外国メディアの日本取材に役立つ様々な情報を提供しています。また、これまでの活動で蓄積された経験や外国メディアとのネットワーク、情報発信の知見を活用して、地方自治体等の海外への情報発信を支援しています。

こうした当センターの活動に賛同し、賛助会員として支えて頂いている企業・団体は、8月1日現在で95団体、そのうち地方自治体は17団体と、最近増加傾向にあります。当センターとしても、これら地方自治体が行う海外への情報発信に可能な限りご協力しています。



【静岡県・温水利用研究センターを取材】

<プレスツアー>

<http://fpcj.jp/modules/news6/index.php>

日本には、40以上の国・地域の外国報道機関に所属する600名を超える外国報道関係者(外務省外国記者登録証保持者)が活動しており、日々日本からニュースを発信しています。当センターでは、これら外国特派員を対象に、日本各地を取材するプレスツアーを企画・運営しています。年間10~15回程度、1回当たりの参加記者は10~15名程度で、参加した記者は日本各地の生の情報を世界に発信しています。これまでの訪問先は北海道から沖縄まで、ほぼ全国にわたり、内容も政治、経済、科学技術から社会や文化まで多様なテーマをカバーしています。最近では、「世界的な不況に立ち向かう地方経済



【栃木県大田原市・那珂川のやな漁を撮影】

(取材地:埼玉県、栃木県)」、「若者が変える日本の農業(千葉県)」「輸出に挑む日本の農産物(福岡県)」などを取り上げました。プレスツアーは、東京を離れる機会の少ない特派員にとって、日本各地の実情を直接取材できる好機として高い評価を得ています。

今年3月の福岡県へのプレスツアー(福岡県地域食品輸出振興協議会からの受託)では、イチゴの「あまおう」や「八女茶」の栽培施設、また11カ国にこんにゃくを輸出している零細企業などを取材し、“高品質”や“安全”をキーワードにした農産物輸出の取り組みを探りました。ツアーには、韓国、中国、シンガポール、イギリス、フランス、ドイツなど8カ国・地域から10名の記者が参加。ヨーロッパの写真通信社の東京支局長が即日配信した記事は、韓国、スペイン、オーストリア、ポルトガル等、世界各国のニュースサイトで取り上げられました。



【イチゴ農家の若手経営者を取材】

<プレスリリースの配信サービス>

<http://fpcj.jp/modules/tinyd0/index.php?id=22>

当センターでは、在京外国特派員や外国大使館等への独自の一斉配信システムを整備しています(e-mail 及び Fax)。これを利用して、地方自治体等が主催する記者会見やイベントのお知らせ、重要なアナウンスメントに関するプレスリリースの有料配信サービスを提供しています(賛助会員は割引料金適用)。

<記者会見室>

<http://fpcj.jp/modules/tinyd0/index.php?id=23>



プレスブリーフィングが行われる記者会見室は、外部の団体による記者会見やセミナーなどのイベントにもご利用頂いています(賛助会員は割引料金適用)。また、そうしたイベントの開催案内のプレスリリースは、上記配信サービスにより、在京外国特派員等へ配信可能です。

【浜松国際ピアノコンクールの記者会見】

【お問合せ先】

プレスツアー: メディア・リレーションズ課(ma@fpcjpn.or.jp、Tel: 03-3501-3405, 5070)

記者会見室、賛助会員: 総括企画課(cp@fpcjpn.or.jp、Tel: 03-3501-5251)

プレスリリース配信サービス: メディア・リレーションズ課、総括企画課